

愛・地球博記念公園の利用者特性に関する調査研究

名城大学 学生会員 山田 真士
 名城大学 フェロー 松井 寛

1. 本研究の目的と背景

近年、公園は都市の緑の中核として、通常時においては、良好な都市空間の確保、日照、通風、緑地の蒸散作用等による都市の微気象の緩和、安全な遊び場、憩いの場の提供、都市景観の形成、運動レクリエーションの場の提供、緑の確保による都市の自然的環境の確保の役割がある。また災害時における火災時の延焼防止機能、災害時の避難地、救援活動拠点、食料・水の備蓄スペースなど極めて多機能を有する貴重な都市施設であるため重要性が高まってきている。本研究では愛知県の都市公園で日本国際博覧会跡地にできた愛・地球博記念公園の利用者特性の把握と旧愛知青少年公園との利用者の変化の把握を目的とした。

2. 都市公園と愛地球博記念公園

一般に「公園」と呼ばれるものは、営造物公園と地域性公園とに大別され営造物公園は都市公園法に基づく都市公園に代表され、国又は地方公共団体が一定区域内の土地の権原を取得し、目的に応じた公園の形態を創り出し一般に公開する営造物である。その中でも都市公園は、まちに潤いと安らぎを与えると共にレクリエーション活動の場や自然との触れ合いの場を提供するものであり、都市公園法(昭和31年法律第79号)第2条1項で定められている。

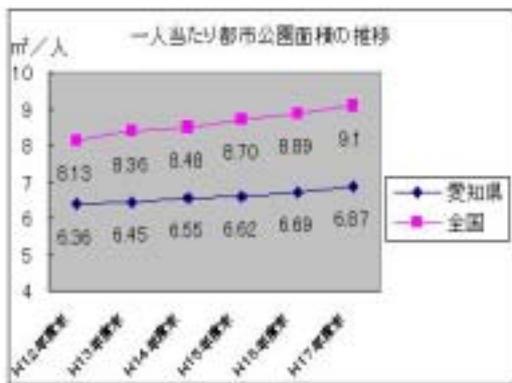


図1 一人当たり都市公園面積の推移

図1より、平成17年度末の愛知県の一人当たりの公園面積は約6.9 m²/人で、全国の約9.1 m²/人と比べてやや低い水準にあることがわかる。このように愛知県は全国的に公園整備が遅れていることがわかる。

愛・地球博記念公園は本来、愛知青少年公園という県営の総合公園であり2002年3月31日に2005年日本国際博覧会準備工事のため閉園。日本国際博覧会后、長久手会場跡地を活用するために、万博の事績を残すために開設されることになった。愛・地球博記念公園の基本方針は、

- ・ 日本国際博覧会の理念と成果を継承する都市公園
- ・ 愛知青少年公園の歴史を活かした都市公園
- ・ 新しいニーズに対応した都市公園
- ・ 多様な自然環境を育む都市公園

であり、「健康で精神的な豊かさとしきりに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園 ~サスティナブル・パーク~」を目指している。

3. アンケート調査と概要

本研究の調査対象は愛・地球博記念公園の公園利用者を対象に利用者無作為に選び、直接聞き取り調査を行った。調査日は2006年10月14日(土)の14:00 ~ 17:00である。アンケート内容は個人属性、アクセス方法・時間、万博の来場の有無、青少年公園との比較、施設の利用状況・感想である。調査後アンケートで得られたデータを基に、分析・考察を行い、利用者特性を把握する。アンケート調査概要・結果を表1に示す。

表1 調査概要・結果

対象公園	愛・地球博記念公園 (通称:モリコロパーク)	
対象公園概要	・全体敷地面積約190ha (第1期開園時約26ha) ・駐車場規模 740台 ・開園時間 7月から10月まで 8:00 ~ 19:00 11月から3月まで 8:00 ~ 18:30	
調査日	2006年10月14日(土)	
調査方法	公園利用者に直接聞き取り調査	
調査項目	Q1: 住まい(個人属性) Q2: 構成(個人属性) Q3: 主要交通手段 Q4: 所要時間 Q5: 万博の来園の有無 Q6: 青少年公園の来園の有無	Q7: 青少年公園の来園目的 Q8: 記念公園と青少年公園の比較 Q9: 利用した施設 Q10: 気に入った施設 Q11: 入退園時間
調査結果	有効データ / 全データ	303 / 333

キーワード： 都市公園 愛・地球博記念公園

連絡先 〒468 8502 名古屋市天白区塩釜口1 501 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL052 832 1152

4. アンケート調査結果

4.1 単純集計

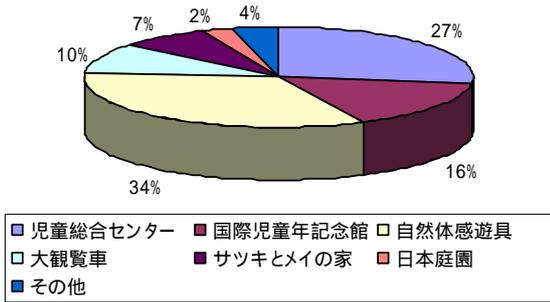


図2 気に入った施設

図2より1番人気であったのは自然体感遊具であった。その他も青少年公園時代からあり人気があった児童総合センターや国際児童年記念館も人気があることがわかる。これらの施設は、小さい子供から大人までが楽しめる施設であり、特に子供と来ている家族連れを中心に高い人気を得ていると考えられる。

4.2 クロス集計

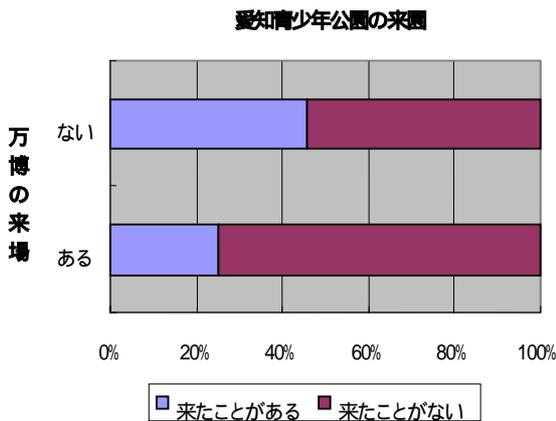


図3 万博の来場と青少年公園の来園

万博の来場と愛知青少年公園の来園の関係について考える。図3より、愛知青少年公園に来たことがなく万博に来ていた割合が高く、これは万博の開催によって公園の存在を知ったことを意味していると考えられる。これにより万博の開催が新しい利用者の増加に大きな影響を与えていると推測される。

5. 青少年公園時代との比較

愛知青少年公園は、青少年の健全な育成を図るため、昭和45年、愛知県により開園された青少年野外活動施設である。愛知青少年公園の利用者は年間240万~290万人程度を推移しており、愛知県におけるレクリエーション施設の入込数では最も多い。

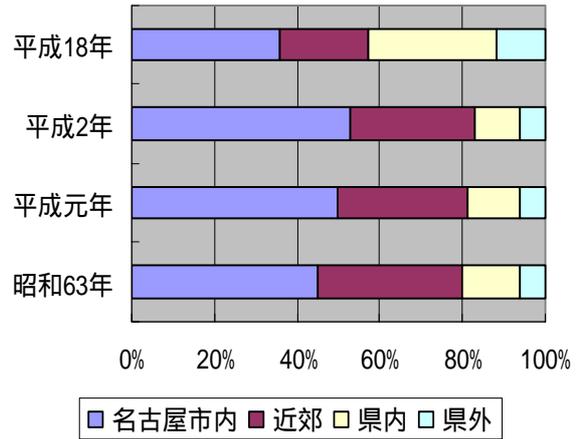


図4 利用者の住まい

図4より、愛知青少年公園時代に得たデータと今回の調査結果を比較すると、昭和63年から平成2年にかけて名古屋市・近郊の住民の利用率が増加傾向にあるが、愛・地球博記念公園開園後の利用者は愛知県内、県外の割合が増加しており、利用者はより広域的になったと言える。

6. 結論

本研究では、都市公園である愛・地球博記念公園の利用者の特性について明らかにし、また愛知青少年公園時代と比較することで、公園利用者の変化と日本国際博覧会開催がもたらす影響について明らかにし、公園利用者の特性が得られた。その結果は以下のとおりである。

万博開催の影響を受け、公園の存在を知ったことにより、愛知青少年公園時代に比べ、より広域からの公園利用者が増加した。

道路整備により自動車での短時間のアクセス、そして公共交通機関の整備によりアクセス方法が充実した。

施設、アクセス、環境の向上により、安心して利用できる公園として家族・友人での来園が増え、利用者のニーズに対応している。

今後の課題として、平成19年3月に第2期開園、平成22年頃に第3期開園し、今後さらに利用者の変化がみられるため、各開園後の利用者特性の変化を把握していく必要がある。そして、アンケートのデータ数や調査項目を増やすことでデータの信頼性を高め解析を行う。

【参考文献】

- 1) 松井 寛/深井 俊英 『新編都市計画 1995.7』
- 2) 愛知県建設部公園緑地課 『愛・地球博記念公園 暫定基本計画 2006.2』
- 3) 財団法人 愛知公園協会 『愛知青少年公園 三十年のあゆみ 2000』